

經濟論叢

第六十二卷 第一・二號

- 古典經濟學に於けるマルサス理論……………岸本誠二郎
- 標本論の一般化の問題……………青山秀夫
- ユスツス・メエゼル（下）……………出口勇藏
- 貯蓄投資の關係と時間の問題……………岩根達雄
- 馬場啓之助著「ジョン・S・ミル」……………行澤健三
- ハンセンの財政々策をめぐる諸問題……………木下和夫

京都大學經濟學會

一 生産への貢獻に應ずる分配一の觀點から現存階級の分配を修正し、かくして得られた理想的私有財産社會と、共產社會とを最大幸福と自由の見地から比較検討するのである。(ミルは社會主義社會との差異を共產主義社會との差異をを私利を以て勞働を勵ます方法を殘存するや否やに置いた)

こゝに於て「生産への貢獻」の意味が疑問視され、就中利潤の歸趨が問題となり、又ミルが代議政體論に於て取扱ふ政治制度が如何なる範圍まで選擇の問題であるかについての意見が検討さるべきであらう。しかしながら最大多数の最大幸福の見地からの問題の取りあげ方は、個人の態度の決定の領域に於て捨て難いものがあると思はれる。

以上方法意識を中心として若干の私見を述べたが、「論理學體系」と「自由論」とは最も永く殘るであらうとはミルが自ら述べる所である。私はこれに「功利主義」をも附け加へたい。彼の結論の歴史的社會的制約はもとより超えらるべきではあるが、彼の方法には超越的に非ずして内在的に超えらるべき面があると思ふ。凡そ思想の生命は、その人生や認識に對する態度が超越的には超えられない所にあるのではなからうか。その故にキリスト教は二千年の生命を保ち、デカルトは近世哲學の父と呼ばれるのではなからうか。

一三二頁の註——即ち「社會主義論」に於ては社會改造の目

ジョン・S・ミル

的は一人類を救済して、個人が自由と幸福を享受し、階級の間の分配の意圖せざる勞働の成果の公平分配とを保障せる社會態に適當ならしむるにあり」とし「婦人の服従」に於ては婦人が男性の意志への從屬の生活から合理的自由の生活に移ることに由る個人的幸福をのべると共に社會的利益として人類の思考實踐力の増大について考察する。「代議政體論」に於ては良き政府形態の判斷の基準として

1 如何に社會の一般的精神的進歩を促進するか(——自由の觀點へ)

2 如何に完全に既存の道德的・知的・行動的な長所を組織して公の事項に關して最大の効果を發揮しうるとくするか(——功利の見地)

の二點を擧げて論ずるのである。

本號執筆者紹介

| | |
|-------|------------|
| 岸本誠二郎 | 京都大學教授 |
| 青山秀夫 | 京都大學教授 |
| 出口勇藏 | 京都大學教授 |
| 岩根達雄 | 京都大學特別研究生 |
| 行澤健三 | 京都大學特別研究生 |
| 木下和夫 | 京都大學經濟學部講師 |

評議員長

靜田 秀夫

岸本 英太郎

岸本 誠二郎

佐波 宣平

靜田 均

島田 恭彦

田杉 競藏

出口 勇稔

豐崎 稔

中谷 實

穂積 文雄

堀江 英一

堀江 保藏

松井 清

山岡 亮一

編輯兼
發行人

松尾 哲彦
京都市左京區田中里ノ内
町一三

印刷人

鈴木 直樹
京都市中京區壬生花井町
三

印刷所

日本寫眞印刷株式會社
京都市中京區壬生花井町
三

發行所

京都大學經濟學部内
京都大學經濟學會
振替口座大阪五〇五三九番
日本出版協會會員
番號B 一一一〇五六號

發賣所

有斐閣
本店 東京都千代田區神田
神保町二丁目十七番地
電話九段(33) 〇三三二番
〇三三三番

支店 振替口座東京三七〇番
京都市左京區吉田
牛ノ宮町三番地

配給元

日本出版配給株式會社
東京都千代田區神田
淡路町二丁目九番地

本誌の購讀及び廣告はすべて有斐閣へ御申込み下さい

(禁轉載)